



林下裏の將

なる文画の形、一ツ一ツ一領花箱ニツテ入之細長は世に子

法なれども、世に日乃豆色をうけて其色に染る

東の才れども、色と當に用ゑる故多し

細長く長く、衣は半端に縫ひ白き練貫

白く塗らま、此は白唐織ゆへ張之蓋此上は銀

めし鳩形を、みづきゆへて張之其向は岩五

ツ六ツ有く、本の高三寸低二寸五分は二ツ立又高

二寸五分の高、浪めく造り立之雄は此間き羽

羽雌ハ口羽、向めく立其外大十又先は銀

めし造り箱の、向めく立其外大十又先は銀

家ニツテ敷き、向めく立其外大十又先は銀

四ツありて下の、價の長六尺餘縦の長二尺斗高三

尺餘この葉は胡粉めく磨く上のかこの葉は甲れん

其内地文の有白唐織めく張之四方と中二通、白組伏有甚

組伏の向めり、向一通しててえさう白紙徳阿り四角も

に目一四方のま、向は銀の唐紙めく小き千鳥形紙

て貼ひ四脚のえに張之送輪と入ル是めは常葉れ地文

向し鷹の毛、向の柱は銀の唐紙ゆへ舞踏の形

を切て貼ひは、向めく立其外大十又先は銀

向めく調之銀の多き、向めく立其外大十又先は銀

日程向く細工、向二貫目、向は銀の唐紙ゆへ舞踏の形

代々將軍家の、向は銀の唐紙ゆへ舞踏の形

勢上賀茂貴布衣春日社園八幡松尾稻荷の邊宮の時諸

神室の飾も恭阿孫家めく調之右の細長一通毎度山科

高倉両家こも、向は銀の唐紙ゆへ舞踏の形

山科家めく調進之又恭阿孫家めく調之右の細長一通

子れ一通城及和泉調も大張子一對赤白粉と三疊紙

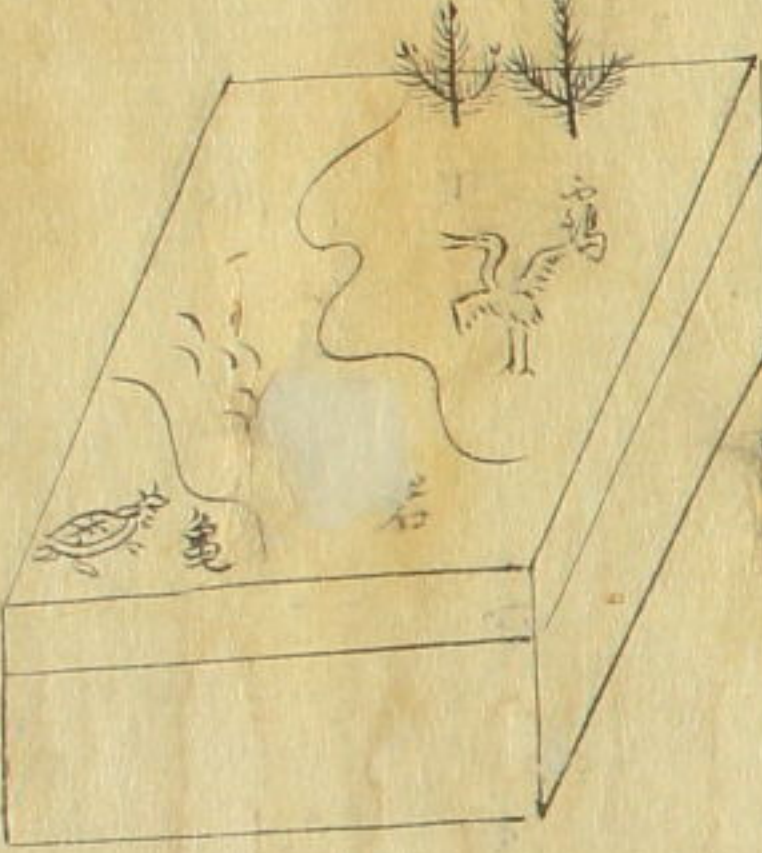
一對赤白粉と三疊紙、向は銀の唐紙ゆへ舞踏の形

向は銀の唐紙ゆへ舞踏の形、向は銀の唐紙ゆへ舞踏の形

城版めく調之其料古より定阿り、向は銀の唐紙ゆへ舞踏の形

細長入の箱此内は亀甲れ白唐織ゆへ張之蓋此上は銀

合口の所は銀めく、輪有



銀の慶ハ則

洲濱乃

形なれ

上の細長入の箱を載るを、是も上のめく、向は銀の唐紙ゆへ舞踏の形

向は銀の唐紙ゆへ舞踏の形、向は銀の唐紙ゆへ舞踏の形



上の細長入の箱を載せる是も上ののこの姿 毎甲の白  
 厚織りくはし四角の銀の金糸

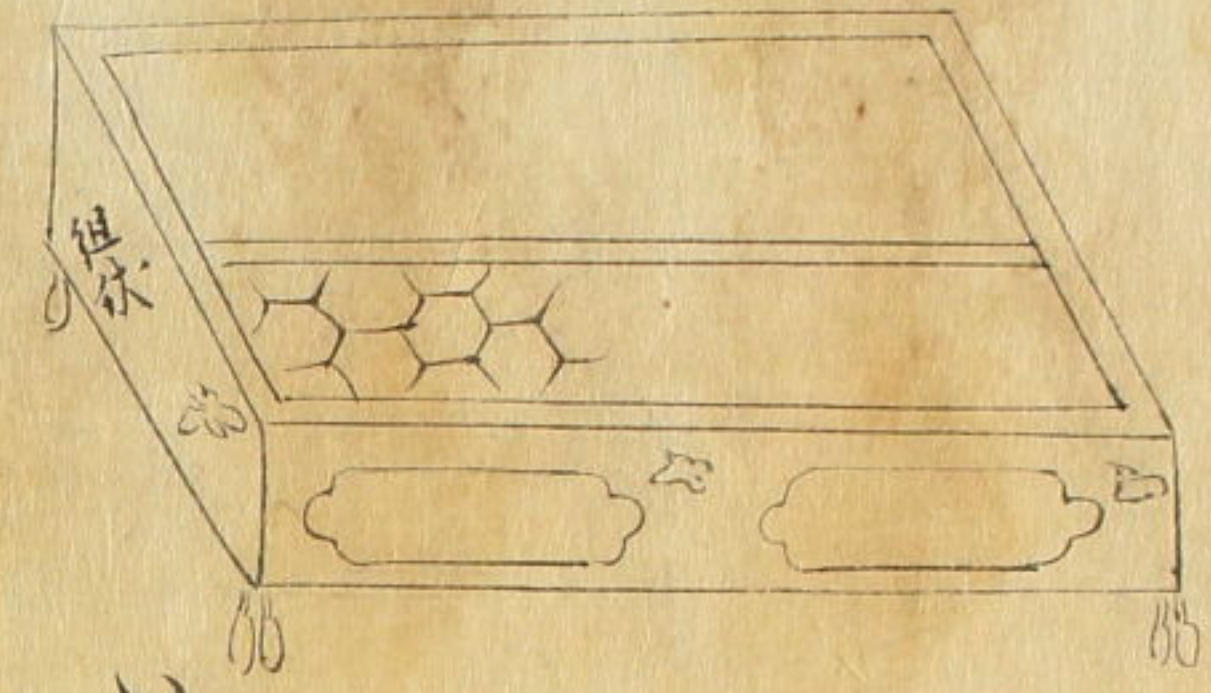


は銀の運輪の地文ハ  
 福を運ぶ色彫の  
 一々其間下并  
 雷の文あり

白き總是ハ上の組伏の

糸の端付

空をさへいふ



は銀の  
 四角の

志強き徳なり

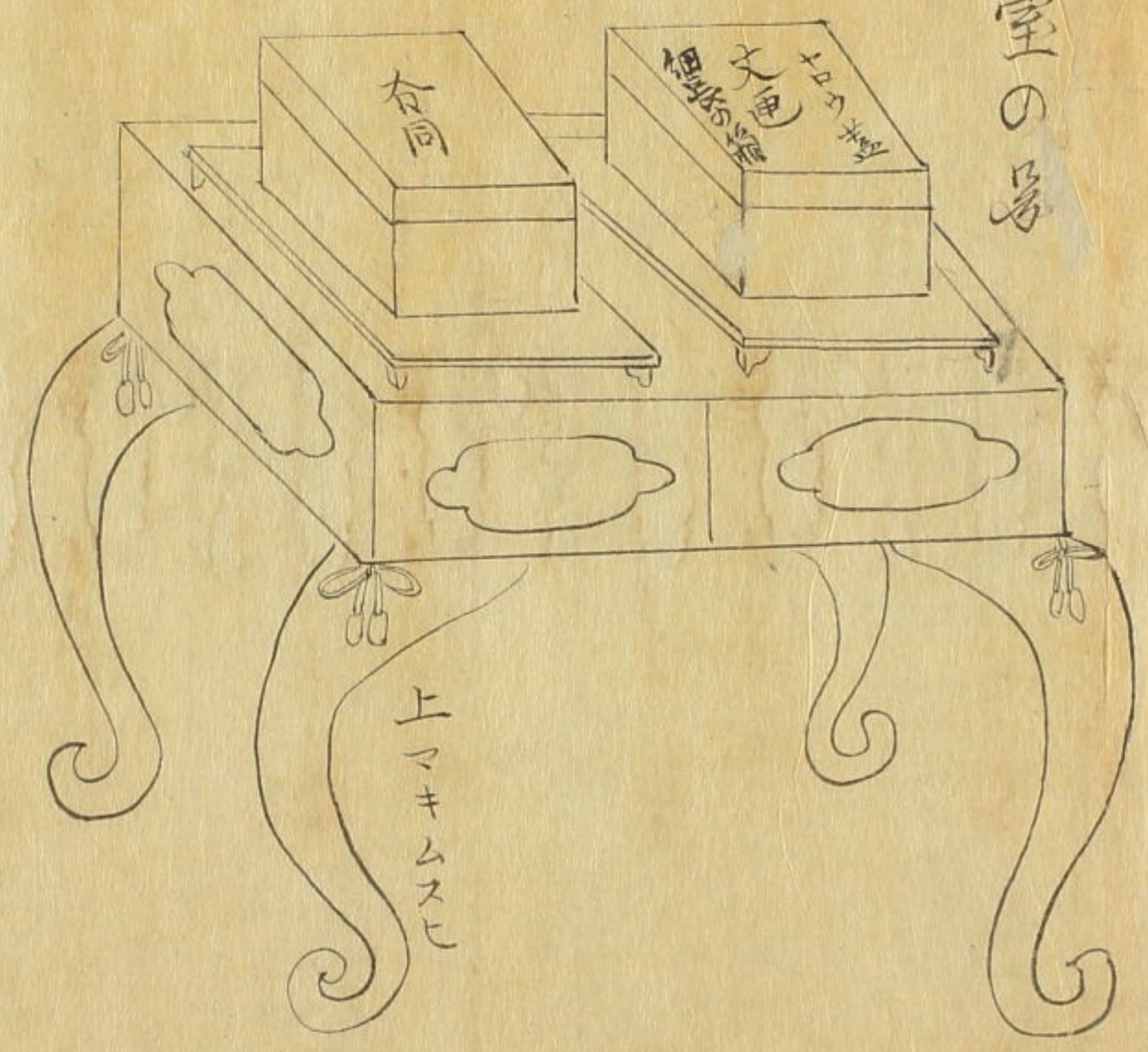
案の上のこの西島甲の白き唐織ハ

張りしは鳥と波の唐紙

あり千鳥形を

印し貼り

細長箱并臺の姿



上マキムスヒ

右一巻 辰方先生ノ所蔵ヲ思借メ燈下ニ摸之者也

文化九年壬申十月七日

八幡与一百里





3645  
76

細長御産衣箱之圖

林平裏の將

なる文画の形

産衣箱

法

東の才

徑

白く

此之の下に賜細長御産衣箱四角

一領花箱ニテ之細長は世に子

世に日乃豆色を以て其色に染る

と色と當に用ゐる故多し

衣箱は絹布製に白き練貫之

袖は

此は白唐織の張之蓋に上は銀

3645  
76



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.

73  
3645  
96